

シングルマザーハウス With プロジェクト【民民連携】

事業の実施機関	認定特定非営利活動法人宝塚NPOセンター
対象地域	宝塚市

連携先の実施機関

生活協同組合コープこうべ（生活協同組合）、株式会社ベストバイ（株式会社）、学校法人 関西大学住環境デザイン研究室（学校法人）、まちづくり協議会、兵庫県立人と自然の博物館

取組の内容

<https://with.hnpo.net/>

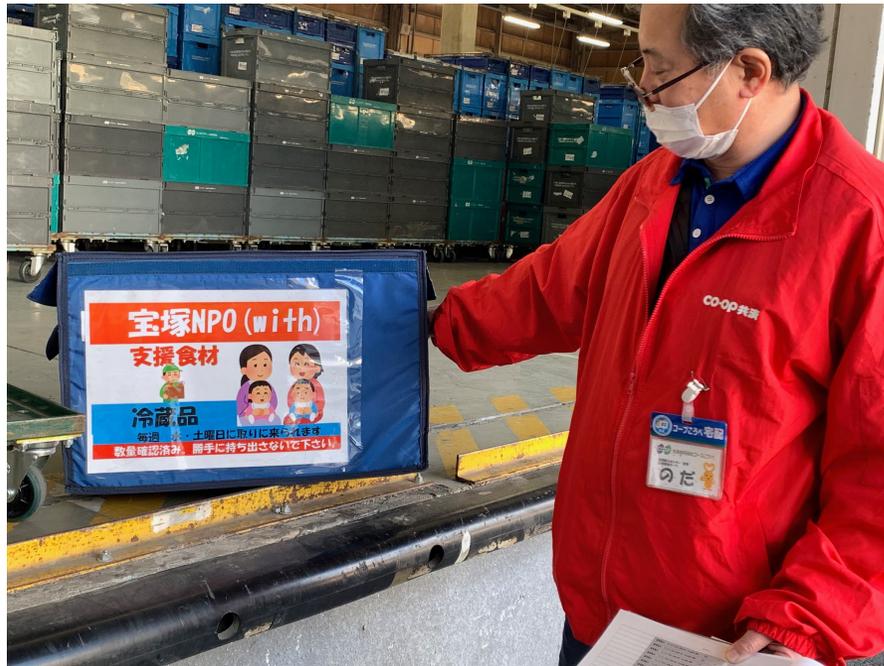
取組の内容	<p>休眠預金を活用し古いアパートをリノベーションしシングルマザーハウスを建築しました。4戸のうち3戸をシングルマザーに貸し、1戸をコミュニティルームとして地域に開く部屋にしています。ソフト支援のうちの1つ食料支援では、生活協同組合コープこうべが食品を週2回提供。また、家電の提供を申し出てくれている（株）ベストバイは、家電提供から発展しシングルマザーハウスの近隣の空き家を買取りシングルマザー支援を開始される予定です。そのハウスの母子に対するソフト支援（就労支援・心理支援・食料支援など）は協働で当センターが実施することになっています。コミュニティルームを子どもの居場所として活用するため、関西大学の建築学科の学生が内装を考え、子ども支援には、神戸女子大学の学生が関わってくれるなど若い人も支えてくれています。</p>
取組にあたって苦労、苦慮した内容	<p>シングルマザーハウスを軸として、様々な主体が動き出し思いもかけない展開に走り出しています。活動者が多岐に渡り、まだ、一堂に会することはできていない。</p>
取組の効果	<p>最初に考えていたシングルマザーの支援は、食料支援・就労支援・心理支援のみだったが「コミュニティルーム」を作ったことで、地域の方が関わり大学生も関わってきています。この建物が生んだ大きな効果だと考えています。</p>

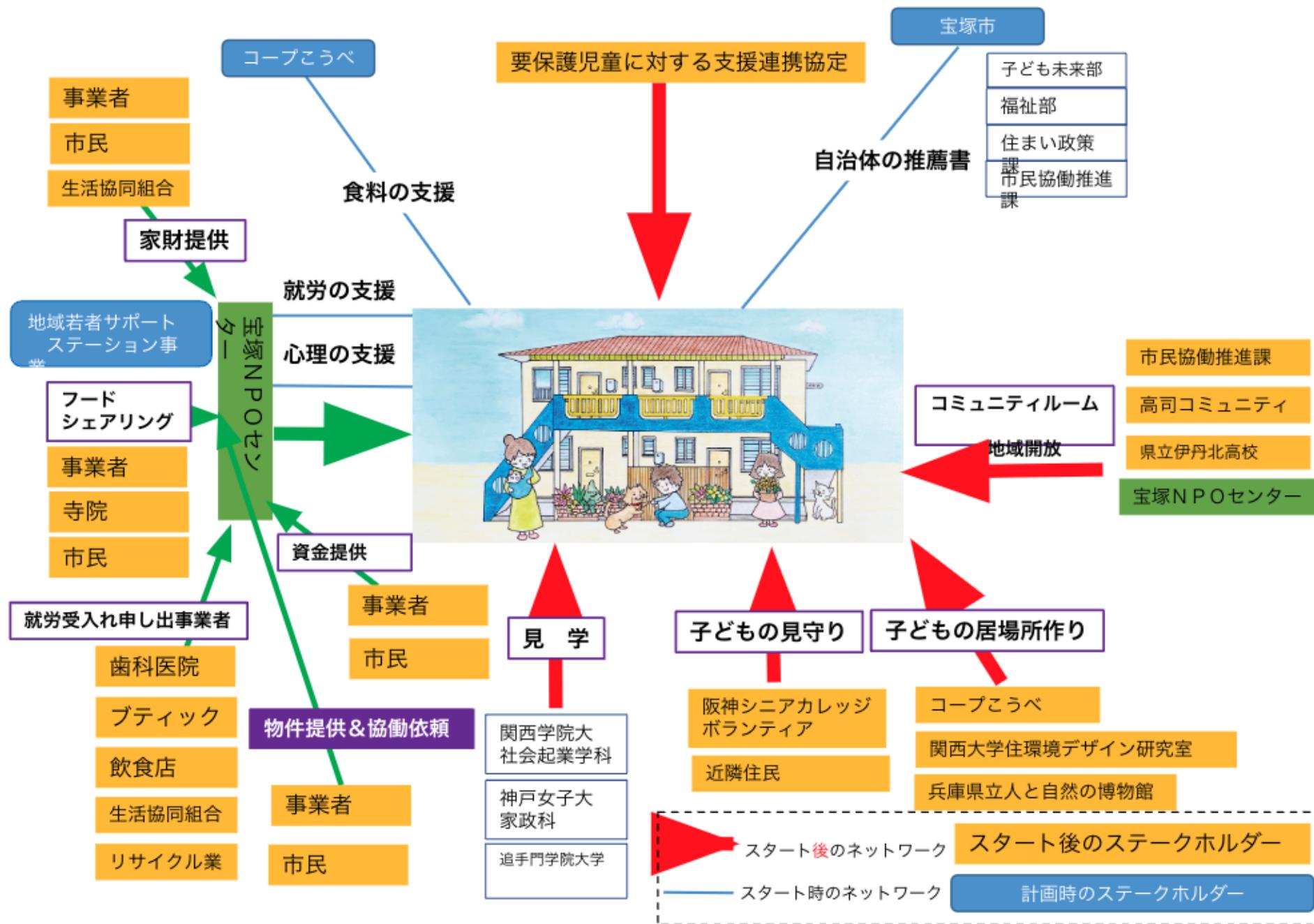
ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
		●	●						●		

令和6年度の更新内容

地域の自治会やPTAの皆さん、大学生が母子ハウスのコミュニティルーム（ただ居間）の活用方法を考えてくださり、少しずつ協働の活動が始まりました。





脳卒中障害者のためのメイクセミナー【民民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人ドリーム
対象地域	名古屋市

連携先の実施機関

特定非営利活動法人ドリーム（特定非営利活動法人）、特定非営利活動法人あなたの声（特定非営利活動法人）、株式会社コーセー（株式会社）、公益財団法人公益推進協会（公益財団法人）

取組の内容

<https://npo-dream.org/news/3982/>

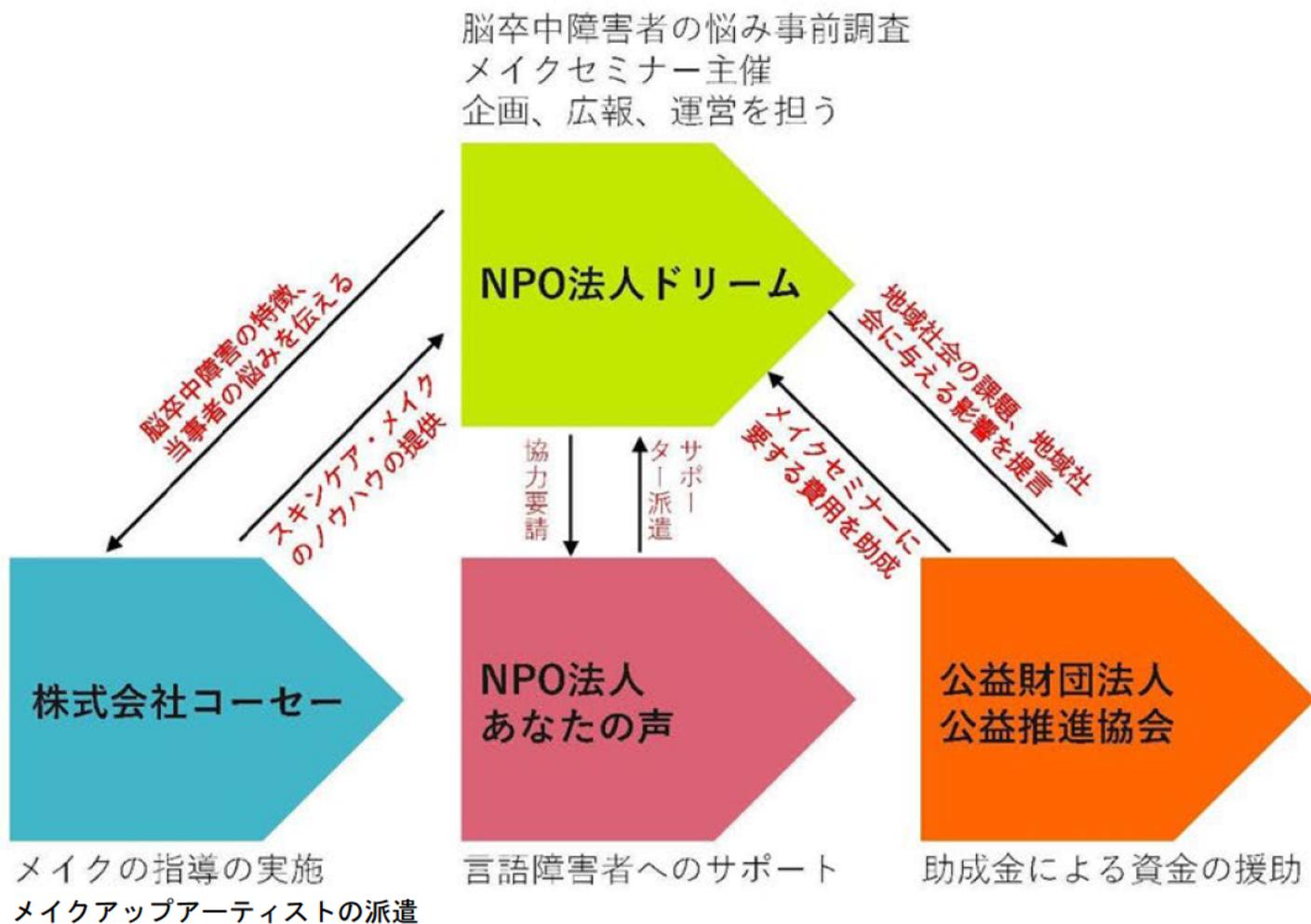
取組の内容	<p>2023年10月29日、脳卒中の後遺症（運動麻痺、高次脳機能障害など）のある脳卒中障害者のため、後遺症により病前のようにメイクができなかったり、メイクをすることを諦めてしまった人に、プロのメイクアップアーティストから後遺症があっても上手にメイクできるコツを学べるイベントを実施。企画のきっかけは、脳卒中障害者の生の声。「脳卒中を発症してからメイクをしなくなった」「百貨店などに行く勇気がなくてメイクの相談ができない」「片手だから諦めた」「片手だと目元が難しくできない」「看護師さんがきれいにメイクしているのを見るたび辛い」など沢山の声を受けて企画したもの。メイクをきっかけに外出が増えたり交友関係が広がるなど、社会参加の機会増加につなげ、前向きになってもらうことができました。対象は、脳卒中障害者であれば誰でも無料で参加可能としています。企画はNPO法人ドリーム、スキンケアやメイクは(株)コーセー、言語障害へのサポートはNPO法人あなたの声、費用は（公財）公益推進協会と、4団体がそれぞれの強みを活かして実施されました。</p>
取組にあたって苦労、苦慮した内容	<ul style="list-style-type: none">・費用の確保。・他業種の企業を巻き込む場合、その障害や課題への理解をしてもらう必要があります。直接的に普段から活動している私たちと、そうでない人との距離や理解をどのように合わせていくのかに注力しました。・広報を行う（チラシ・PR）にあたり、各団体での表現などがあり、そういった部分での共有や意思疎通を想定以上にしておく必要性を感じました。例えば、「障害」と「障がい」を表記に関しては、企業イメージにも関わるなどの理由もあり、本社での確認や承認が必要ということもあり、余裕を持った日程での企画が望ましい。
取組の効果	<p>参加者からは、「本当に参加をしてよかった、すごく楽しかった」「病気を発症してからメイクを諦めていたけど明日から化粧する！」「今まで目元メイクができなかったけどやり方を教えてもらって出来るようになった」「外に出るときに化粧が出来ると思うと、外出が楽しみになった」「同じ脳卒中の人同士で交流できて嬉しかった」との声が寄せられました。医療機関、個人のセラピストなども複数人が見学を希望し、こういった支援を地域社会で実施できるようになりたいと言っていました。(株)コーセーの商品デザイン部の方々が、障害者でも使用しやすいパッケージを開発するため、直接に障害者にヒアリングを実施していました。このイベントは中日新聞にも掲載され、SNSでは、こういった企画を待っていたので●●県でもやってほしいという要望が数件寄せられました。</p>

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

令和6年度の更新内容
<p>メイクセミナーに参加した当事者や家族が、当事業所に来てくれるようになりました。</p> <p>今まではあまり外出をしなかったり孤立していた人が、メイクセミナーへの参加をきっかけに、化粧をするようになったり、外出するようになったという声が届いています。</p> <p>助成金事業ということもあり、スポットでの開催であり、継続するには資金力などが不足しているという課題もあります。</p> <p>新聞掲載、当団体のHPやSNSでの広報、(株)コーセーのHP掲載、NPO法人あなたの声のHP掲載など、取り組みを広く広報することが出来ました。</p> <p>講演や学会でメイクセミナーの取り組みを発表することで、当団体の活動への理解や関心を得ることに大きな成果が出ていると感じています。</p> <p>そのおかげか、実際に他企業より当団体とコラボをしたいという声掛けをしてくれました。</p> <p>2024年9月にその企業でのイベント開催を実施することになりました。</p>

実施体制図：脳卒中障害者のためのメイクセミナー

脳卒中を発症すると、片麻痺や高次脳機能障害、半側空間無視などの様々な後遺症が残る方がいる。発症前まではできていたことが、発症後思うようにできなくなることもあり、悩んでしまうケースが多い。そんな脳卒中障害者の方から寄せられたメイクに関する悩みを解決するため、脳卒中障害者のためのメイクセミナーを開催。脳卒中障害者なら誰でもメイクを学ぶことのできる機会を地域に創るため、NPO法人ドリーム、(株)コーサー、NPO法人あなたの声、(公財)公益推進協会の民間連携により実現にいたった。



【開催におけるポイント】

- 脳卒中の啓発がしやすい、脳卒中月間（10月）、世界脳卒中デー（10月29日）に開催
- 事前に、当事者へのヒアリングを実施して、どんなことに悩んでいるかを調査。ヒアリングは対面だけではなく、SNSなどを活用して県外からも多数の意見を集約。
- 4団体がそれぞれの強みを活かして役割を分業。参加者だけでなく、4団体それぞれにもメリットが得られるように企画。
- 約100団体に情報を発信してPRに協力要請。多くの団体がチラシの設置や声掛け、SNSなどでPRに協力してくれた。医療機関や施設などから、メイクセミナーの情報を得ての申込みや体験希望が多かった。
- 計画的に、広報を展開。テレビ愛知からは問い合わせがあったが取材には至らなかった。中日新聞は取材、掲載にいたった。
- コーサーの商品開発部によるヒアリングを実施し、半身麻痺など障害があっても使いやすい化粧品開発につなげることができた。

参考資料：HPにおける啓発

脳卒中障害者のためのメイクセミナー 開催しました

10月29日の世界脳卒中デーに、脳卒中障害者のための『私にもできる頑張りすぎない、いきいきメイクセミナー』を名古屋で開催しました。

この企画は、「(公財)公益推進協会 横寺敏夫 患者と家族の支援基金」の助成、化粧品メーカー「樹コーサー」の全面協力、「NPO法人あなたの声」の失語症者サポートにより開催する事が出来ました。

脳卒中を発症すると、運動障害、失語症、高次脳機能障害、半側空間無視など、様々な後遺症が残る方がいます。発症前まではできていたことが、発症後思うようにできなくなることもあり、悩んでしまうケースが多いのです。しかし、そのすべてが治療やリハビリで治るわけでも、医療保険や介護保険のサービスでカバーできる訳でもないのです。

後遺症により困る生活場面の一つが化粧やスキンケアです。メイクセミナー開催のきっかけは、脳卒中障害者の方から寄せられたメイクに関する悩みでした。何人かに聞いてみると、多くの方がメイクに関して悩んでいることを知りました。

「片手しか動かないからうまくメイクが出来ない」

「目元のメイクがどうしても…アイラインやビューラーは諦めた」

「眉など左右のバランスを整えることが難しい」

「百貨店などに行く勇気がなくてメイクの相談ができない」

本当にたくさんの方が化粧やスキンケアで悩みを抱えていることが分かりました。さらには、化粧をすること自体を諦めてしまったという方も少なくありませんでした。

このような背景を受け、脳卒中障害者なら誰でもメイクを学ぶことのできる機会を地域に創るため、今回の企画を実施することになりました。

参加者は28名、見学や企画側の人も含めると約60名。参加者は3～4人のグループに分かれ、コーサーの化粧品を使って実戦形式で進行。メイクセミナーの講師はコーサーの林さんを中心に、チームで対応してくれました。メイクとスキンケアの技術やコツを分かりやすく教えてくれるだけではなく「クリームは麻痺側の手にのせて動く方の手で…」など、脳卒中の後遺症に配慮したアドバイスも盛り込んでくれました。まさに「脳卒中障害者のためのメイクセミナー」です。参加者がどんどん笑顔になって元気になっていく姿を見て「化粧の力」を実感しました。最後にはコーサーの化粧品7点セットを参加者にプレゼント。これには会場から拍手が沸き起こりました。

NPO法人あなたの声からサポートに来てくれた会話パートナーも大活躍で、脳卒中障害者の皆さんをサポートしてくれました。会話パートナーさんの的確なサポート、協力なくしてこの企画は成り立ちませんでした。本当にありがたい！

メイクの実践をした後は「容器ヒアリング」を実施。これは、脳卒中障害者の人が障害があっても使いやすい化粧品を開発するため、コーサーの商品デザイン部の担当者が参加者にヒアリングを実施する、というものです。参加者らは、日頃から化粧について悩んでいる気持ち、困っていることをたくさん話してくれました。脳卒中を発症した人にしか分からないこと、とても貴重は意見だと思えます。よりよい容器デザインの開発のために自分たちの経験や思いを教えてくれた参加者の方、そしてその気持ちに全力で応えてくれたコーサーの皆さん、本当にありがとうございます。

参加者からは、たくさんの喜びの声が聞かれました。

「本当に参加をしてよかった、すごく楽しかった」

「病気を発症してからメイクを諦めていたけど明日から化粧する！」

「今まで目元メイクができなかったけどやり方を教えてもらって出来るようになった」

「外に出るときに化粧が出来ると思うと、外出が楽しみになった」

「同じ脳卒中の人同士で交流できて嬉しかった」

今回は「世界脳卒中デー」「脳卒中月間」という、脳卒中の啓発が世界中で行われる日に開催をしました。メイクセミナーの開催は、脳卒中障害の理解を地域に広げるきっかけにもなりました。

そして何より、メイクの力で皆を笑顔にすることができました。

こうやって、脳卒中障害のある方が社会参加することのできるきっかけを創り、医療や福祉だけではなく企業とも連携した優しい地域創りを実践していきたいなと思える一日でした。



2023年(令和5年)11月3日(金曜日)

市民版

脳卒中障害者らの
孤立防ぐセミナー
中区でNPO
「世界脳卒中デー」の10
月29日、脳卒中障害者とそ
の支援者ら向けの「私にも

できる頑張るすぎない、い
きいきメイクセミナー」が
中区大井町のイーブルなご
やで初めて開かれた。

脳卒中障害者を支援する
NPO法人ドリームが主
催。化粧品メーカー「コー
セー」が、セミナーの進行や
化粧品の提供で協力した。

当事者やリハビリを指導
する人など計29人が参加
。コーセー社員のアドバイザー
を受けながら、アイライン
を引いたり、顔に化粧クリ
ームを塗ったりして、楽し
くメイクのコツを学んだ。写
真。

脳卒中により、うまく言
語が話せなくなったり、片



胸が動かせなくなったりし
て外出しなくなる人は少な
くないという。ドリームの
加賀瀬圭太事務局長(39)は
「メイクを通して、楽しさや
いきがいを感してもらい、
孤立する人が少しでも減れ
ばうれしい」と期待した。

■ 備考

その他、今回の取組が様々なところで紹介。

※もしくは紹介予定

- ・脳卒中看護認定看護師による看護学会の講演
- ・NPO法人あなたの声の会報誌
- ・㈱コーセーの社内報
- ・介護美容のを取り組んでいるセラピストのSNS
- ・回復期病院のHPや会報
- ・日本脳卒中協会のSNS
- ・自費リハ施設のSNS
- ・facebook上の脳卒中コミュニティ など

ゲートキーパー育成・支援のための全国モデル創造事業【官民連携】

事業の実施機関	特定非営利活動法人LightRing.
対象地域	全国

連携先の実施機関

厚生労働省社会・援護局総務課自殺対策推進室（省庁）、SMB C日興証券株式会社（株式会社）、国立大学法人東京大学（国立大学法人）、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（国立研究開発法人）、Zoomビデオコミュニケーションズ（株式会社（米国サンノゼ本社CSR事業 Zoomcaresと））

取組の内容

<https://lightring.or.jp/>

取組の内容	自殺・孤独孤立防止のため、11年間の支援実績を活かし、「子ども若者ゲートキーパー育成支援」に専門性を置いた全国モデル形成に注力しています。 その支援結果として、門番としての自殺を止めることのできる子ども若者ゲートキーパーの増加により、身近な友人等の自殺念慮者/企図者の孤独や孤立を防ぎ、現実的な自殺減を目指します。 ① 下記活動に従事する若者ピアスタッフ育成講座 ② オンラインゲートキーパー養成研修/支援コミュニティringSの運営 ③ ②事業の心理尺度を用いた効果測定 ④ ゲートキーパー支援を目的とした支援団体の全国ネットワーク形成 ⑤ オープンチャットを用いたゲートキーパーのための相談居場所運営（24h365日）
取組にあたって苦労、苦慮した内容	「友人等の悩みを受け止める子ども若者」を支援する必要性が有るが、使用できる制度がなく未だ行政職員や支援専門職と連携・協力することが極めて困難です。（事業NO ⑤）
取組の効果	本活動の特徴として受講者全員が友人等の希死念慮を受け止めるゲートキーパーである点。 30代以下、19歳以下参加者が7%存在し、20代参加者が最も多く68%を占める点にあります。 さらに、具体的に友人や兄弟等の10代同世代の自殺を止めた例も多数報告を受ける実態にあります。

ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
			●	●	●	●		●			

令和6年度の更新内容

・取り組みの対象範囲の拡大（厚生労働省助成金事業の位置付けのみならず、行政委託事業として港区事業を請け負っております。また来年度は例年度比2倍の学校数に展開する運びになりました。北区・中野区との行政委託に向けた調整を進めております。）



第6回

ring's



Light Ring.



2023.12.10

全国子ども・若者ゲートキーパー育成・支援モデル事業 実施体制

自殺・孤独孤立防止のため、11年間の支援実績を活かし、「子ども若者ゲートキーパー育成支援」に専門性を置いた全国モデル形成に注力しています。その支援結果として、門番としての自殺を止めることのできる子ども若者ゲートキーパーの増加により、身近な友人等の自殺念慮者/企図者の孤独や孤立を防ぎ、現実的な自殺減を目指します。

- ①下記活動に従事する若者ピアスタッフ育成講座 ② オンラインゲートキーパー養成研修/支援コミュニティringSの運営 ③②事業の心理尺度を用いた効果測定
④ゲートキーパー支援を目的とした支援団体の全国・国際ネットワーク形成 ⑤オープンチャットを用いたゲートキーパーのための相談居場所運営（24h365日）

※連携機関の役割と活動内容など
・事業No①～⑤全体の広報連携等

※連携機関の役割と活動内容など
・事業No①②の運営に関するZoomアプリケーションのライセンス無償提供
・事業No④ZoomCaresを通じた国際ネットワーク形成

厚生労働省社会・援護局
総務課 自殺対策推進室

特定非営利活動法人
LightRing.

Zoomビデオコミュニ
ケーションズ

実態、支援状況の報告
国が主体となる自殺対策
事業の助言・支援等

活動支援

計測結果の提供
支援事例の報告
NCNP主催の地
域精神保健福祉
に関する国際会
議への事例提供

※国立大学法人東京大学
国立研究開発法人 国立精
神・神経医療研究セン
ター

活動地域
全国・オンライン

※連携機関の役割と活動内容など
・事業No③の尺度開発、解析
・学会発表
・論文作成等による支援方法の可視化
・報告書への助言等

民間連携事業体による“住宅確保要配慮者”居住支援推進【民民連携】

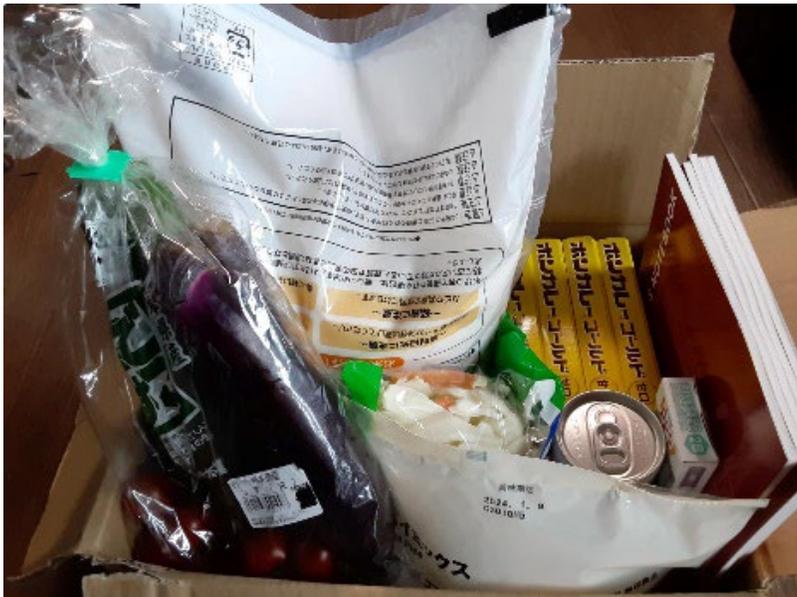
事業の実施機関	スマイルプロジェクト
対象地域	愛知県東部及び岐阜県

連携先の実施機関
特定非営利活動法人かみああと（特定非営利活動法人）、特定非営利活動法人うっどああと（特定非営利活動法人）、リーブル株式会社（株式会社）

取組の内容	
https://smile-project.amebaownd.com/pages/4118096/page_	
取組の内容	<p>本コンソーシアムでは住宅確保要配慮者の問題を解決するためには、以下の取り組みを総合的に行い、対象者の社会的・経済的自立に向けての支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的支援の充実 住宅確保要配慮者への経済的支援を充実させることで、経済的な困難を軽減することができます。 ・ 生活支援体制の整備 地域の支援体制を整備することで、住宅確保要配慮者の孤立感を解消し、社会とのつながりを促進することができます。 ・ 居住支援の強化 住宅確保要配慮者貧困対策を強化することで、子どもの健全な成長を支えることができます。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	新たな包括的な取り組みの為、仕組みを構築するまでが大変でした。
取組の効果	本年度より実施して、現在2名の案件を支援中

ライフステージの区分											
子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

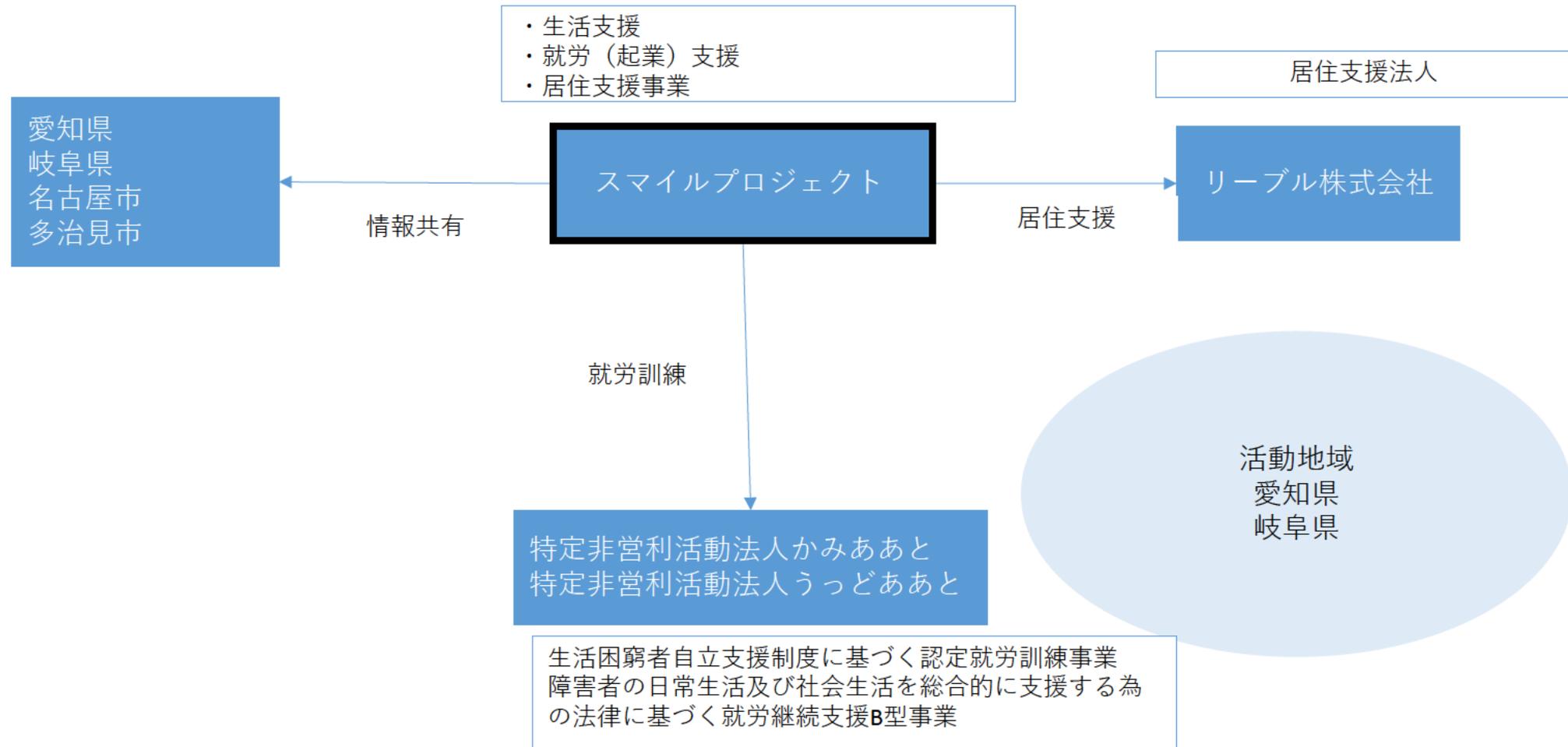
令和6年度の更新内容
行政にも取り組み事例が広く知られる事になり、支援対象者の増加に繋がりました。



民間連携事業体による“住宅確保要配慮者”居住支援推進事業 実施体制

本コンソーシアムでは住宅確保要配慮者の問題を解決するためには、以下の取り組みを総合的に行い、対象者の社会的・経済的自立に向けての支援を行います。

- ・経済的支援の充実
住宅確保要配慮者への経済的支援を充実させることで、経済的な困難を軽減することができます。
- ・生活支援体制の整備
地域の支援体制を整備することで、住宅確保要配慮者の孤立感を解消し、社会とのつながりを促進することができます。
- ・居住支援の強化
住宅確保要配慮者貧困対策を強化することで、子どもの健全な成長を支えることができます。



ウエルシア薬局株式会社との「地域福祉の推進及び健康増進に関する協定」に係る移動販売事業【官民連携】

事業の実施機関	行田市
対象地域	行田市

連携先の実施機関	
行田市（地方公共団体）、ウエルシア薬局株式会社（株式会社）、社会福祉法人 行田市社会福祉協議会（社会福祉法人）、地域包括支援センター、自治会、民生委員、障がい者施設、高齢者施設等	

取組の内容

https://www.city.gyoda.lg.jp/soshiki/kenkouhukushibu/tiiki_kyosei_syakai/gyomu/sonota/9508.html

取組の内容	行田市とウエルシア薬局株式会社が、公民連携を通し、人と人、人と資源がつながる仕組みを構築するもの。移動販売によって地域の買い物課題の解決を図りながら、併せて移動販売を通じた地域コミュニティの創出も目的とするもの。ウエルシア薬局株式会社の専門職による講座などによる住民の健康増進や、移動販売による買い物課題の解消や見守りといった地域課題の解決、地域の活性化など地域福祉の推進を図り、もって地域共生社会の実現を図っています。
取組にあたって苦労、苦慮した内容	自治会や民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会などから意見を聞きながら、周辺の商店の状況等も踏まえて販売が必要そうな場所の当たりをつけ、販売場所選定を進めましたが、集会所等の移動販売車の乗り入れに適した場所が存在しない地区も多く、調整に苦慮しました。
取組の効果	取組により、地域の買い物課題が解決されるだけでなく、定期的な外出機会や人と会う機会が創出され、交流の楽しみや孤独・孤立の軽減に寄与しています。また、地域に住む多様な方々の相互理解、介護予防といった様々な効果が生まれるとともに、障がい福祉サービス事業所による生製品の販売などを行い、社会参加の機会を創出しています。

ライフステージの区分

子ども～就学前	妊娠期から就園前	就学前 (概ね3～5歳)	小学生	中学生	高校生	大学生	大人	若年層 (中卒・学業中退者18歳～34歳)	中年層 (35歳～64歳)	高齢層 (65歳～)	年齢や属性を問わない
											●

令和6年度の更新内容

- ・移動販売が地域に定着し、毎月延べ約1,000人が買い物に利用しています。
- ・既存の販売場所を再選定するとともに、これまで販売を行っていなかった地域において新規に10ヵ所で販売開始しています（計55ヵ所）。なお、販売場所の再選定や新規拡大においては、ウエルシア薬局株式会社からの販売状況の報告や地域からの反響を踏まえ、行政側が地域に対して再度販売意向等の確認調査を行い、選定を行っています。
- ・数年にわたり地域の中で交流が途絶えていた単身の高齢者が、販売場所へ買い物に来るようになり、周辺の住民とのコミュニケーションが戻ってきたなどの個別の事例があるとともに、販売場所に人が集まることをきっかけとして、スポーツや体操等といった地域の自主的な取組が生まれ、楽しみと生きがいの創出につながっています。
- ・障がい者施設を販売場所としている地域においては、地域住民が施設に伺うことにより入居者や施設利用者との交流が生まれ、障がいを持つ方以外との多様な交流が広がっております。



ウエルシア薬局株式会社との「地域福祉の推進及び健康増進に関する協定」に係る移動販売事業 実施体制

移動販売により買い物課題の解決を図るとともに、地域コミュニティの創出を図り、もって孤独・孤立の軽減に寄与する。

